

理	火	法
乗合建設費貸付金償還		
準備積立金處分		
土地売却	八七、五〇〇・〇〇	
資本勘定資金殘充		
捐資補償金	六、二〇〇・七六	
普通經濟よりの補填	七四、〇〇〇・五五	
供給乗合よりの補填		
減債基金にて立替支出	三六、五四三・三二	
貯工資金の運用		
供給準備積立金繰替		
同減損補積立金繰替		
翌年度歳入繰上充用		
當該年度缺損分		
爲替差損金		
内		
二九、〇〇〇・〇〇	一四、二六〇・〇〇	一〇〇、〇〇〇・〇〇
一四、三〇〇・〇〇	二六、八六八・八八	二六、八六八・八八
一六、六〇〇・八八	四、二〇〇・〇〇	一〇〇、〇〇〇・〇〇
一、六八二・三五〇	八六、〇〇〇・〇〇	八六、〇〇〇・〇〇
一、七〇〇・〇〇	一〇〇、〇〇〇・〇〇	一〇〇、〇〇〇・〇〇
三、七四一・二二	一、七〇〇・〇〇	一六、〇〇〇・〇〇
八、九四一・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
七、九六四・四五	五、三三三・六四	七、九六四・四五
五、〇六八・五二	三、四四一・一一	五、〇六八・五二
七、九六四・四五	七、九六四・四五	七、九六四・四五
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
五、〇六八・五二	五、〇六八・五二	五、〇六八・五二
七、九六四・四五	七、九六四・四五	七、九六四・四五
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
七、九六四・四五	七、九六四・四五	七、九六四・四五
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇
三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇

依之見るに従来の赤字は諸積立金よりの補填、供給經濟即ち電燈事業及び乗合事業經濟即ち乗合自動車事業よりの補填、並に土地賣却等によつて補填され來つたが、昭和七年度に於ては遂に五百三十二萬圓、八年度に於ては七百九十九萬圓の翌年度歳入繰上充用即ち赤字公債による補填を見るに至つて居る。軌道經濟が如何に行詰れるかを窺ひ知るべきである。供給經濟に於てはその收支殘金は最近急激に減少したが尙ほ若干の殘金(昭和八年度二萬九千圓)を示し、乗合自動車經濟に於

ては昭和四年以降赤字を示し昭和八年度に於ては五十萬圓に達して居る。  
 二、赤字の原因  
 上述の如き赤字の主たる原因は凡そ次の如くである。  
 4 乗車料収入の減少  
 市電の主たる収入源泉は云ふ迄もなく乗車料収入であるが、左表の如く昭和四年以降急激なる減退を示しつゝある。

年	度	乘	車	收	入	指	數	雜	收	入	合	計	指	數
大	正	十	一	年	三、二、八四〇、九四三・四	一〇〇		三、三、三六六、〇九四・九		三、五、〇七七、五五二・四	一〇〇			
同	十	二	年	二、四、七三六、三八六	七八		三、一、六〇、五二〇		二、七、八九六、九〇六	八〇				
同	十	三	年	三、一、七〇三、五八六	一〇〇		五、八三一、一四六		三、七、五三三、七三二	一〇七				
同	十	四	年	三、〇、七二八、七〇一	九七		四、八四〇、八六三		三、五、五六九、五六四	一〇一				
昭	和	十	五	年	二、九、〇四一、七一八	九一		三、八、一六〇、六五		三、二、八五七、七八四	九四			
同	同	十	六	年	二、八、八五九、九二六	九一		三、五、三三二、三八八		三、二、三九九、三二四	九二			
同	同	十	七	年	二、九、〇七八、〇五二	九一		三、六、五八、三九三		三、二、七三六、四四五	九三			
同	同	十	八	年	二、七、二〇一、七五四	八五		三、五、三〇、一八六		三、〇、七三一、九四〇	八八			
同	同	十	九	年	二、三、七九八、九五七	七五		三、三、四九五、五四三		二、七、一四四、五〇〇	七七			
同	同	十	一〇	年	二、一、五六二、三一六	六八		二、八三〇、一五六		二、四、三九二、四七二	七〇			
同	同	十	一	一	年	一、九、一九八、一二五	六〇		三、九〇八、〇七一		二、三、一〇六、一九六	六六		